

ESD-Jオンラインセミナー「持続可能な社会のための人材育成」 第2回「自治体とESD/SDGs」(2020年12月26日)

岡山市の事例から自治体のESD/SDGs
の取り組みについて考える



池田満之

- ESD-J副代表理事
- 岡山ESD推進協議会(RCE岡山)
運営委員長
- 岡山市京山地区ESD・SDGs
推進協議会会長
- 岡山ユネスコ協会会长 等





岡山市(72万人)は、市全体でESDに取り組んでいます。市として**ESDの推進に関する条例**を制定し、市役所内に専門部署としてESD推進課を設置(2020年度よりSDGs・ESD推進課)し、岡山ESD推進協議会(RCE岡山)を形成して、SDGs・ESDを推進しています。



写真:岡山市

持続可能な開発のための教育の推進に関する条例

平成26年9月30日 市条例第128号

本市は、長い年月をかけて、先人達により築かれ、維持されてきた里山・里地が広く残されており、他の都市では見られなくなった希少種を含め、多様な野生生物の生息環境が維持されている。また、古代吉備文化の昔から積み重ねられてきた豊かな歴史や文化遺産が地域の中で大切に保存されているなど、持続可能な暮らしや活動が息づいている。こうした中、ユネスコ及び日本政府から、2014年の「ESDに関するユネスコ世界会議」の「各種ステークホールダー会合」の開催地として本市が決定されるとともに、2015年以降のESDを実践するグローバル・アクション・プログラムにおいて持続可能な開発のための教育における地方自治体の役割が盛り込まれるなど地域での取組が一層重要なになってきている。このため、世界全体の10年間にわたる取組成果の総括と、新たな方向性がテーマとなる会議にあわせ、ここに**私たちは、持続可能な発展のために欠かすことのできないESDに真摯に取り組み、国内外の地域や組織と連携し、及び協力しながら、地域全体でESDに対する取組をさらに強化し、平和で持続可能な社会の実現に貢献するまちづくりを推進することを決意し、この条例を制定する。**

(目的)第1条 この条例は、豊かな環境と調和のとれた経済の発展を図りながら持続的に発展することができる社会(以下「持続可能な社会」という。)を構築するため、**ESDの推進**に関し、**基本理念**を定め、**それぞれの責務**を明らかにすることにより、現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

(定義)第2条 [省略]

(愛称)第3条 この条例の愛称を「E(えーものを)S(子孫の)D(代まで)条例」とする。

(基本理念)第4条 ESDは、世代を超えた私たち一人ひとりが、将来世代や地球環境との関係性の中で生きていることの認識とともに、それぞれの地域の自然環境の保全、市民の生活の安定及び福祉の向上並びに文化や歴史の継承に資するとの認識の下に、**環境、経済、社会文化**その他の持続可能な社会の構築に関わるあらゆる分野において、それぞれ適切な役割を果たすとともに、**協働**と**連携**を図りながら、**体系的かつ総合的に推進**されなければならない。

(市の責務)第5条 市は、前条の基本理念(以下「**基本理念**」といふ。)に基づき、**ESD**に関する施策を総合的かつ計画的に策定し、及び実施しなければならない。[以下、省略]

岡山でのESD・SDGsへの道

1998年、ユネスコ・パリ本部でプレゼンテーションと討議へ
1999年には岡山で「第55回日本ユネスコ運動全国大会」を
ユネスコ本部職員も招いて開催



←ユネスコ本部にて
ESDの前身であるESFの
責任者グスタホ・ロペス・
オスピナ部長とつながる

→
第55回日本ユネスコ
運動全国大会in岡山
(岡山シンフォニー
ホールにて)



2001年、様々な環境活動間の連携を図ることにより、市域全体の環境に係る意識・行動の変革を目指す「環境パートナーシップ事業」を開始

清掃大作戦



市民協同発電事業



廃油石鹼づくり

活動資材の
提供
優れた活動の
顕彰

岡山市

交流・
連携支援



公園愛護活動

地域活性化
等と連携し
た活動の拡
大・掘り起し



菜の花プロジェクト

企業の環境保全活動

参加各組
織の活動
レベルの
向上



市民団体や企業等からの申請により、岡山市環境保全条例の規定に基づき、様々な環境活動を市に登録

2001年、岡山で「ユネスコ加盟50周年事業」開催



式典には、ユネスコ本部からESF責任者のグスタホ・ロペス・オスピナ氏を招き、記念事業に位置付けた「環境パートナーシップ事業」等を発表しました。このことが、2002年のヨハネスブルグ・サミットのユネスコ主催「持続可能な未来のための教育」会合への招待につながりました。

2002年のヨハネスブルグ・サミットのサイドイベント、ユネスコ主催の「持続可能な未来のための教育会合」の「ESDの背景と場面」のセッションで、岡山市は「持続可能な都市をめざして」と題して、ESDに通じる「環境パートナーシップ事業」等を発表し、提案を行いました。（池田満之が岡山市特別代表に任命され、市長代理として発表させてもらいました。）



2002年「ヨハネスブルグ・サミット(WSSD)」関連会議で 岡山市が示した提案

世界中に自主的自発的な活動の輪が広がっていくことにより、地域や地球の環境保全が図られることを願い、活動に参加する子どもや青少年、大人達の登録数を競うプロジェクト「Save the Earth Citizens Registration Rally」の実施を、ユネスコを通じて世界に呼びかけ、その登録人数が、世界の人口の5%にあたる3.1億人となることを当面の目標として、世界の各都市が市民や企業の自主的な環境づくり活動の拡大に取り組んでいくよう提案した。

ESDが目指す社会変革のためには、一定数以上の人の意識と行動を変えないと社会は変わらない。

2002年の年末、岡山市はユネスコに対して、この提案を「国連ESDの10年(DESD)」のための国際実施計画案の形にして提出しました。岡山市の担当局長がユネスコ本部で松浦事務局長に手渡しました。

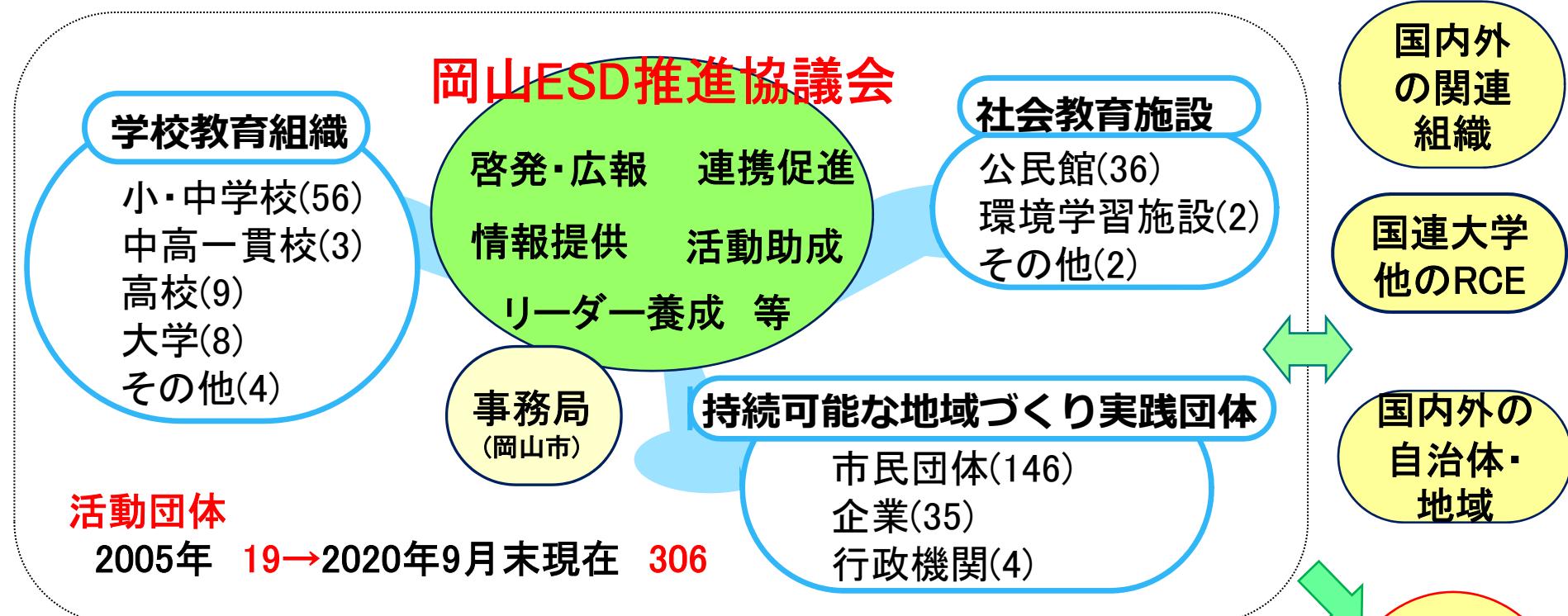
この提案の中で、新たな環境づくり活動を掘り起こし、岡山市環境パートナーシップ事業の参加人数を、現在の本市人口の2%から、今後数年間で5%にすることを当面の目標として、自主的・積極的な環境づくりの全市的な広がりを目指す方針を表明していたので、すぐに実行しました。岡山市のグリーン調達基準の加点対象にこの事業への参加を入れてもらうことで、企業の参加が大きく増えました。



この時期、池田満之が岡山商工会議所青年部で環境委員会の委員長をしていたので、この提案を委員長として市長に提案、市長から承諾をいただいて実現しました。産官民が協働して全市的に取り組むことで、地域社会を変えていける一例かと思います。

2005年4月、岡山地域ではRCEの考え方と環境パートナーシップ事業の実績を踏まえて「岡山ESDプロジェクト」を開始

市域全体で様々な組織が連携・協働しながら、ESD・持続可能な地域づくり活動に取り組む。



岡山ESDプロジェクトの特徴(岡山モデル)

- (1) 地域を拠点とした市域全体での取組～公民館、ユネスコスクールを核に推進～
- (2) あらゆる世代、多様な組織が参加
- (3) 専従コーディネーターによる継続的な支援
- (4) 行政による継続した事務局運営

持続可能な社会・SDGsの実現に貢献

岡山ESDプロジェクト

重点取組分野



持続可能な地域の姿の共有

ユース・人材育成

地域コミュニティ・公民館でのESD推進

学校のESD推進

優良事例の顕彰

ESD活動の拡大

企業・事業者の取り組み促進

海外や国内との連携



岡山市におけるESDの進め方

1. 岡山ESD推進協議会に係る事業

- プロジェクトに参加する各組織・団体が、それぞれ既存の資源を活用する。
- 協議会活動については、市が事務局業務や協議会活動自体に係るすべての経費を負担する。

- (1)財政基盤の弱い市民団体等が新たにESD活動を強化するための経費の一部助成
- (2)ESD関連活動に関する各種助成制度の紹介
- (3)必要となる知識や技術、人材を有する組織等の紹介、活動間の連携支援
- (4)地域全体のESDを効果的に推進していくこと等のため「直接事業」の実施 等

2. 岡山市ESD関連事業

- ESDの推進に関する条例の制定
- 既存の市自身の幅広い事務事業について、ESD推進資源として見直し強化を図る。

- (1)ユネスコスクール活動や公民館活動、海外交流、市民協働を促進する事業
- (2)環境保全活動の促進や子育て・健康づくりの支援、コミュニティサイクルや公共交通機関の利用促進事業等の持続可能な地域づくり活動
- (3)自然や国際交流、防災、文化等をテーマとした各種学習事業 等

岡山ESDプロジェクトにおける岡山市の役割

岡山市におけるESD推進の特徴『岡山モデル』

(1) 地域を拠点とした市域全体での取組
～公民館、ユネスコスクールを核に推進～

(2) あらゆる世代、多様な組織が参加

(3) 専従コーディネーターや大学による継続的な支援

(岡山市役所の役割)

- 協議会活動を担う事務局業務を行う。
- 協議会活動自体に係るすべての経費を負担
- 既存の市自身の幅広い事務事業について、
ESD推進資源として見直し強化



岡山市役所全体でのESDの推進について

環境や国際理解、市民協働、教育、多文化共生、まちづくり、防災、健康・福祉、など、市の幅広い業務はESDとの関連が深いことから、これらについてESDの視点から捉え直し、**市全体で「ホール・シティ・アプローチ」の実現を目指しています。**

- ESD関連予算のパッケージ化
- 市長を本部長とした岡山市ESD推進本部を設置
- ESD庁内連絡会議の設置
- ESD条例の制定
- 新人研修等でのESD研修の実施



岡山ESDプロジェクトの取組状況について

岡山ESDプロジェクトは参加している各組織により、それぞれ主体的に取組まれている。そのうち、協議会が直接実施した事業及び、岡山市の関係各部局が実施している事業の概要については以下の通り。(一部抜粋)

活動分類	岡山ESD推進協議会が直接実施した事業 (※平成27～29年度の主要なものは13事業)	岡山市役所のESD関連事業 (※平成30年度: 18課等の34事業)
ESDへの包括的な取組	○様々な組織が行うESD関連活動の一部助成等による支援	○関係各部局のESD関連事業・施策について調整、公表
ESDを実践する教育者の育成	○ESDコーディネーター研修を実施 ○岡山連携都市圏でESD研修を実施	○地域活動リーダーの養成 ○教員対象のESD研修の実施
ESDへの若者の参加支援	○ユネスコスクール活動の支援 ○ESD学生インターン事業の実施	○小中学生を対象とした各種自然体験事業の実施
ESDへの地域コミュニティの参加促進	○ESD活動団体発表交流会の開催 ○ESD岡山アワードの開催 ○ESDカフェの連続開催、大型商業施設でのイベント開催 ○ESDウィーク事業の実施	○ESD・市民協働推進センターの運営 ○ESDに係るウェブサイトの構築 ○身近な野生生物をシンボルとした環境保全活動の支援 ○倫理的消費の普及・啓発

成果

(「岡山ESDプロジェクト2015-2019の取組状況に係るとりまとめ結果より）

1. 活動の広がり・深まりが進み、持続可能なまちづくりに繋がっています

- 協議会参加組織では、プロジェクト全体の成果について全体の8割が肯定的な評価であった。
- 小中各校や公民館では、児童生徒や公民館利用者また、教員・職員等の意識や行動の変容に繋がっている。
- 活動分野について、プロジェクト開始当初に比べ様々な分野に広がっている。
- 子育てや独り暮らしの高齢者、外国人居住者の暮らしのサポート活動、野生生物の保護活動等の持続可能なまちづくりに繋がっている事例が生まれている。



2. 広域的な交流が地域内外のESDの推進、地域活性化にもつながっています

- プロジェクトに係る様々な活動や組織が、ESD関連の広域的な顕彰・表彰を受けている。また、市内でESD関連国際会議が継続して開催されている。
- 国内外の関係者との交流が、地域活動における新たな気づきや、活動自体の深まり・広がりに繋がっている。
- ESD関連会議が一つの契機となって、イスラム圏の訪問者への対応するまちづくりが地域活性化にも繋がっている。
- ESD岡山アワードの開催等により、広域的なESD推進にも貢献している。



岡山市第六次総合計画 長期構想

計画期間:平成28(2016)–37(2025)年度

〈将来都市像〉

I. 中四国をリードし、活力と創造性あふれる「経済・交流都市」

- 地域経済の活性化による魅力と活力あふれるまちづくり
- コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり
- 歴史と文化が薫り、誇りと一体感の持てるまちづくり

II. 誰もがあこがれる充実の「子育て・教育都市」

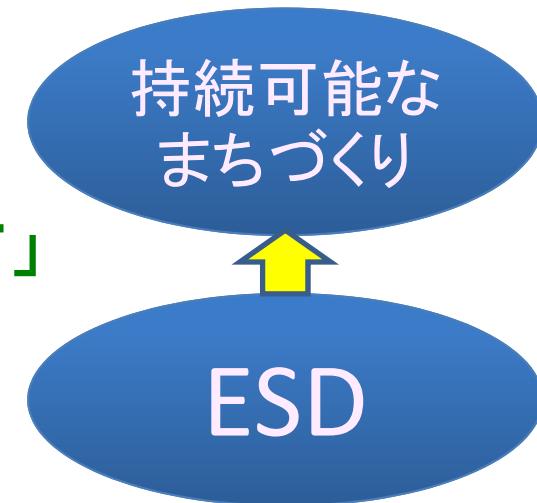
- 安心して子育てができる、若者や女性が輝くまちづくり
- つながる教育で未来を拓く人材を育むまちづくり
- 理解を深め合い、ともに築く市民主体のまちづくり

III. 全国に誇る、傑出した安心を築く「健康福祉・環境都市」

- 住み慣れた地域で安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり
- 地域の力をいかした災害に強く安全・安心なまちづくり
- 豊かな自然と調和した持続可能なまちづくり

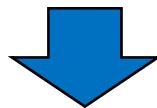
都市経営

- 圏域をリードし、都市の持続的な発展を支える都市経営



岡山市の持続可能な地域づくりにおける課題

- 2020年をピークに人口が減少に転じ、高齢化が進行
- 若い世代の地域外への流出、地域経済の活力の低下
- 地域活動の担い手の減少、地域の愛着心の低下
- 市街地の拡散による中心市街地の活力の低下
- 中心部、周辺部を通じ公共交通が衰退
- 里山・里地の環境を支えてきた農業就業人口の減少、高齢化に伴う自然環境の悪化、生物多様性の喪失 等



- 新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興、活力ある農業の振興
- 歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進
- 地域の活力を担う人材の育成・確保
- コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり
- 地域連携の推進、地域の課題解決のための持続可能な取組 等

地方創生の方向性(岡山市 まち・ひと・しごと創生総合戦略 より)

岡山市のSDGsの取組



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

SDGs未来都市への選定

- ◆ ESD活動の推進はSDGsの目標達成に繋がるため、ESDの取組にSDGsの要素を取り入れる
- ◆ 健康づくりとESDをテーマにした提案書により、今年6月に岡山市がSDGs未来都市に選定された
「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまちおかやまの推進」

SDGs推進体制と今後の取組

- ◆ 市長を本部長とする岡山市SDGs推進本部を設置
- ◆ これまでのESDの取組を活かし、SDGsの普及啓発を図る
 - ・市職員へのSDGsの研修
 - ・市民へのSDGsをテーマにしたイベント開催
 - ・SDGsのフォーラムや学習会の開催

岡山の経緯

- 2001 岡山市環境パートナーシップ事業開始
- 2002 「持続可能な開発に関する世界首脳会議」サイドイベントで岡山市報告
- 2005 岡山ESD推進協議会設置 岡山ESDプロジェクト開始
国連大学よりRCE(ESD地域拠点)認定
岡山市に専任コーディネーター配置
- 2007 岡山市の公民館の事業方針に「ESDの推進」を規定
岡山大学と岡山市が「ESDに関する協定」締結(大学との最初の協定)
- 2012 世界会議岡山開催決定
- 2013 岡山市教育振興基本計画にESDを位置づけ
- 2013 ESD世界会議推進局設置
- 2014 ESDに関する世界会議を開催
岡山市ESD推進条例施行
- 2015 市民協働局ESD推進課設置(2020年よりSDGs・ESD推進課へ)
「岡山ESDプロジェクト2015-2019」基本構想策定、新たな事業開始
- 2016 「岡山ESDプロジェクト」ユネスコ/日本ESD賞受賞
- 2017 「岡山市」ユネスコ学習都市賞受賞
- 2018 岡山市が「SDGs未来都市」に認定される

ESD推進協議会の事業例

ESD学生インターンシップ

NPOや公民館の活動に参加する窓口に



社会課題の解決に取り組むNPOなどの現場で、実際の取組を体験し、自分の考えや感じたことをもとに、課題解決に向けた取組を伝えるプレゼンテーションを行う。

夏期:8, 9月
冬期:2, 3月 各10日間程度



ESDコーディネーター研修

(11月～1月延べ4回)



ESDの視点を取り入れた学習プログラムが企画できる人を増やす。市職員、市民合同の研修(20人/年)

ESDカフェ

第3木曜日 環境学習センター・アスエコ

※持続可能な社会づくりに関する話題の交流会

今年はコロナ禍でZOOM開催



ESD岡山アワード

国内外におけるESDの実践事例を顕彰することで、ESDの見える化や普及に貢献し、ESDの事業を実施する団体の活動の充実への一助とすることを目的とし、「ESD岡山アワード」を創設

◎グローバル賞

賞金 3000ドル 2件以内

海外、国内(岡山県内を含む)で実施されているESDの事業を実施する団体を対象

◎岡山地域賞

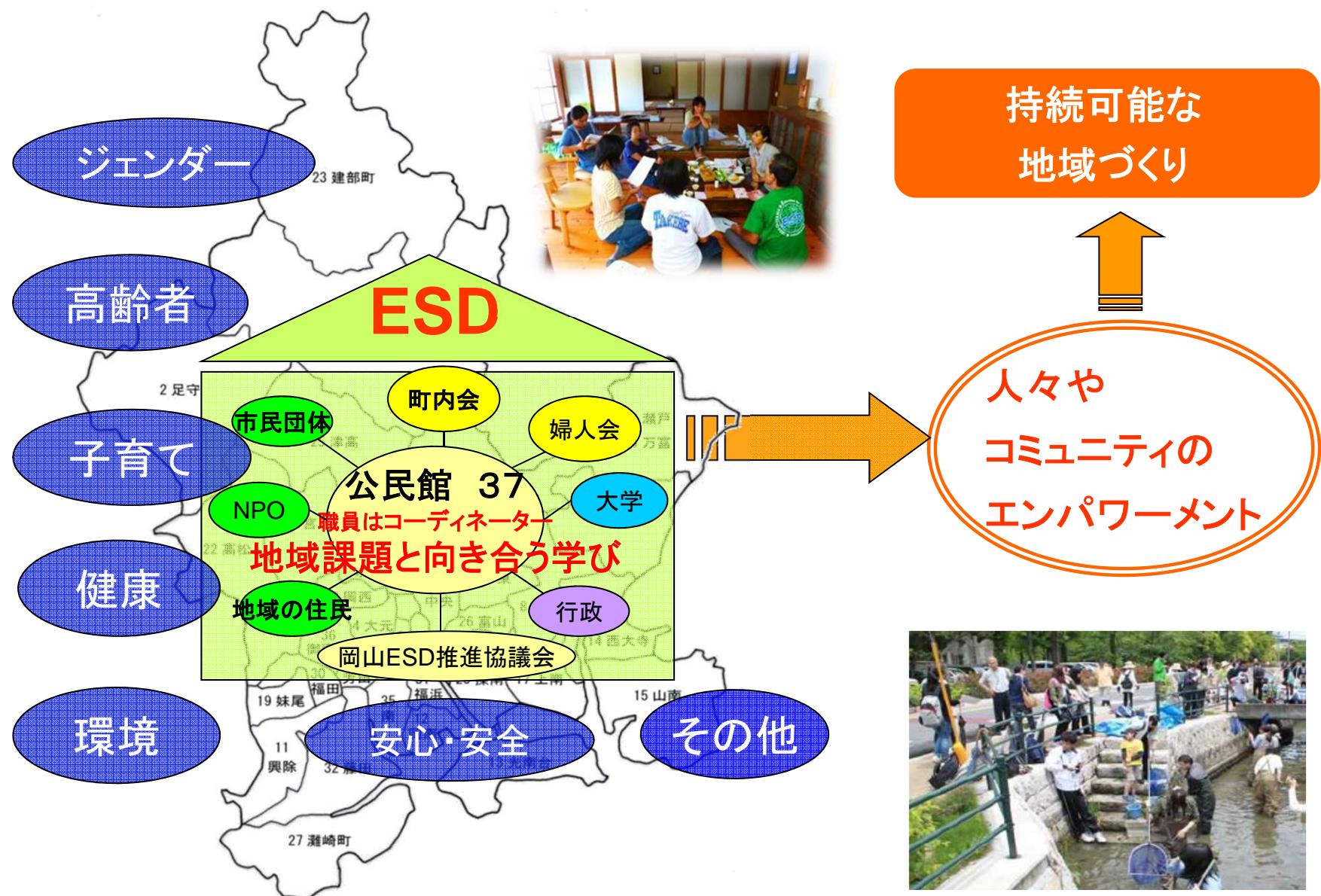
副賞 20万円 2件以内

岡山県内で実施されているESDの事業を実施する団体を対象

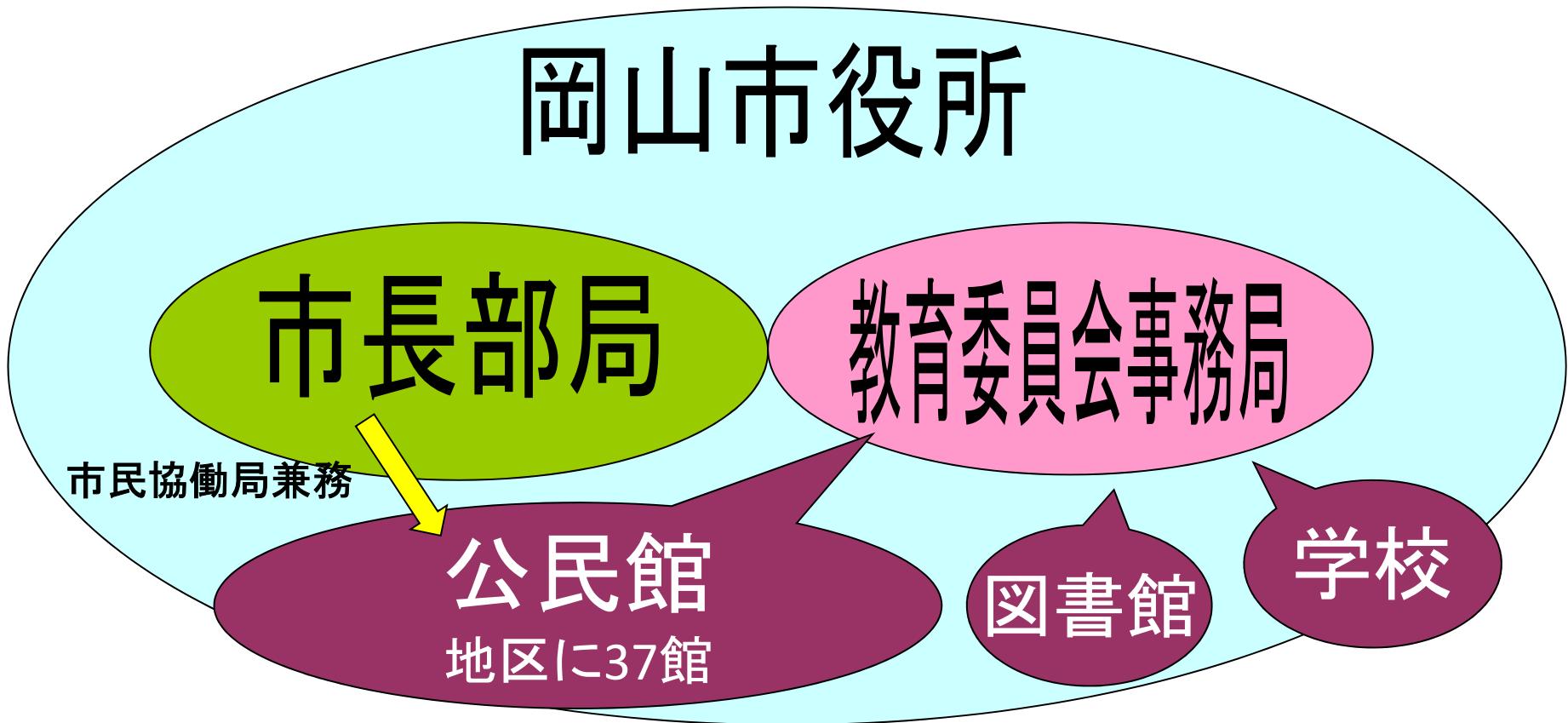
2020年度からはグローバル賞は継続し、岡山地域賞は岡山SDGsアワードへ統合化されました。



公民館を拠点としたESD推進

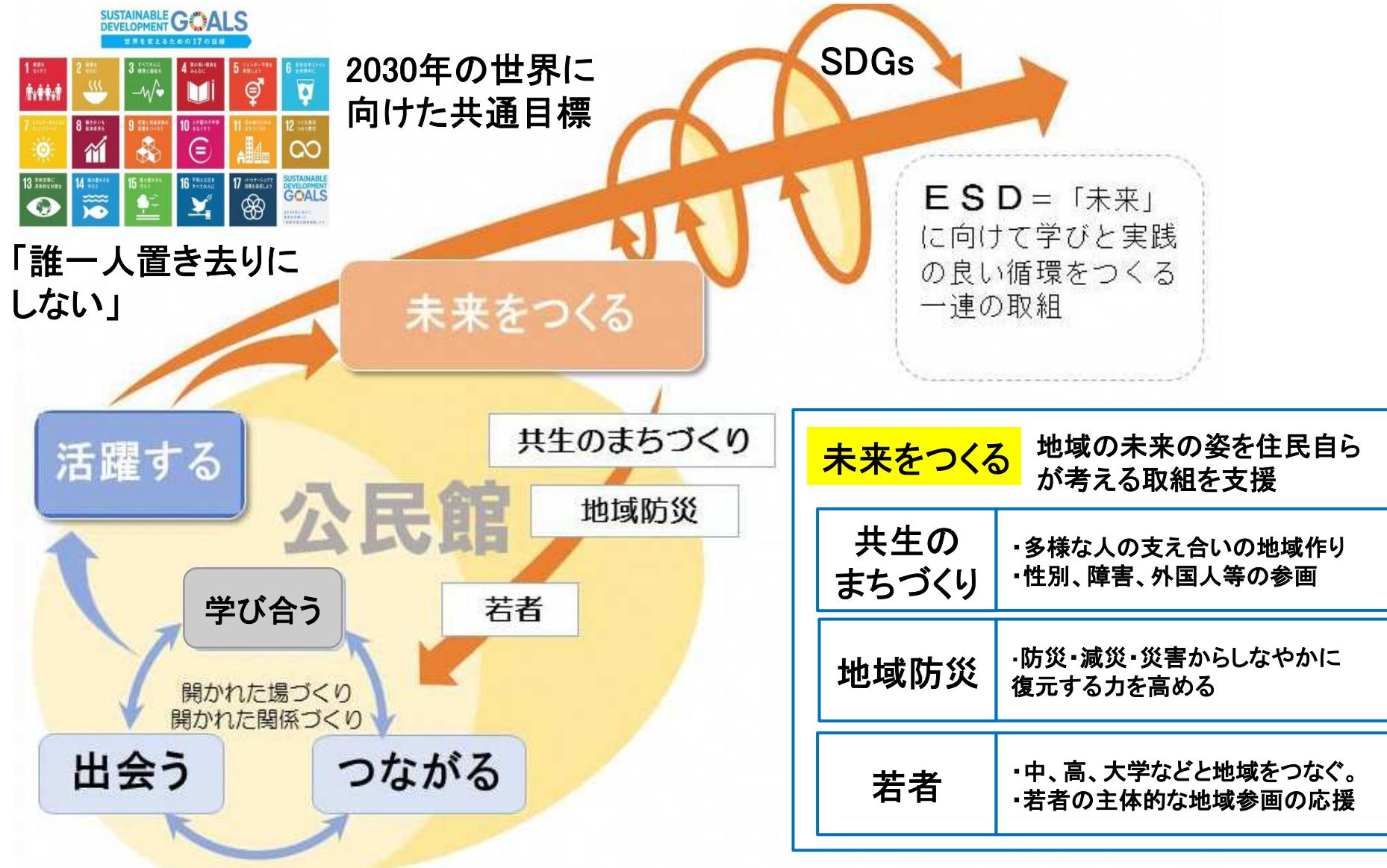


公民館の位置づけ



- ・岡山市教育委員会が所管
- ・社会教育法に準拠した教育機関
- ・社会教育主事（専門職）が配置（市民協働局兼務）

公民館を起点とした住民の地域づくりプロセス



出典:岡山市教育委員会事務局生涯学習課資料

岡山市北区京山地区(2万5千人、1万2千世帯)は、平成15年度より、公民館を拠点にESDによる持続可能な社会づくりに取り組んでいます。



京山公民館



京山山頂から見た京山地区



**目標
4**

障害者や高齢者も誰もが安心して暮らせる、安全で安心な住みよい地域をつくります。Sound, safe and secure society, where all citizens, live together including handy-caps and elderly.



「地域の絆プロジェクト」

**目標
5**

学んだことを活かせる場をつくることで、学びから持続発展し続ける地域をつくります。A community with equal opportunity for all people in contributing their learning on social subject concerning sustainable development.



市長と語る会
Discussion with the Mayor

公民館のESD: 京山公民館

～地域ESD推進協議会による学校と公民館、地域が連携～

岡山市京山地区ESD推進協議会

学校教育

岡山大学
岡山商科大学
ノートルダム清心女子大学

岡山工業高校
鳥城高校
明誠学院高校

京山中学校

伊島小学校
津島小学校 等

伊島認定こども園 等

行政・社会教育

岡山市立京山公民館
岡山市立伊島図書館
岡山県生涯学習センター 等



京山公民館運営協議会 各市民クラブ等

各町内会 各老人会 各校PTA 愛育委員会

岡山ユネスコ協会 京山中同窓会 民生委員会

京山ICT・ムービー京山 津島生活学校 連 勉

池田動物園 両備ホールディングス オテンテン

チューリップの会 環境アセスメントセンター 等

NPO・企業 等



岡山市 岡山市教育委員会・生涯学習課公民館振興室・岡山市内各公民館

岡山ESD推進協議会 各ESD促進団体 環境省中国四国地方環境事務所



「緑と水の道」

京山地区「やさしく走ろう京山」運動

地域の大きな課題になっている「自転車マナーの向上等」に取り組む活動です。平成29年度からは、京山地区にとどまらず、隣接する御野学区や学校・自治体等とも広域連携し、「自転車先進都市おかやま」に相応しい運動の輪を広げています。



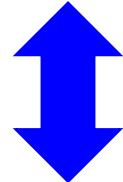
岡大入口交差点での活動の様子



啓発用プレートも、これまで地域で経費を負担してきましたが、今年度からの追加製作分からスポンサーをつけることで、経費負担を解消しています。

啓発用プレート

従来版



スポンサー
付き





2019年1月27日、岡山市京山地区の防災に関する 地域の絆ワークショップ

「いつ逃げたらよいか」、「どこへ逃げたらよいか」、「災害弱者への対応」、「災害時のための備え」などについて、岡山市の危機管理室の担当者や被災者や中高生なども一緒に、みんなで話し合いました。

2018年7月7日の京山地区内、半田山崩落の現場 →





京山ESD・SDGs対話／地域全体会議 Kyoyama ESD・SDGs Meeting

市長、教育長、岡山市幹部職員、岡山大学学長など小・中・高・大の各学校長、国会議員、市会議員、岡山ESD推進協議会の会長や事務局、岡山経済同友会の代表幹事や役員、岡山ユネスコ協会の会長や役員、小・中・高・大の児童・生徒・学生代表、京山地区ESD推進協議会や各市民セクターの代表などが一堂に会しての対話の場です。



ESDによる持続可能な開発を「緑と水の道」で具現化



歩道も水路の間の仕切りもない上、違法駐車が多く危険。



市民提案協働事業



広い歩道ができ、水路の間の仕切りもできて安心。散歩もゆっくり楽しめる。

水辺にふれる雁木もできて、
親水性も安全性も高まった。

違法駐車が出来ない、
スピードの出せない
構造になって安心。

岡山市都市ビジョン2007と京山地区のまちづくり

岡山市都市ビジョン※ 水と緑が魅せる心豊かな庭園都市

京山地区のまちづくりの構想
絵図町のまちづくり(絵図宣言)

緑と水の道プロジェクト

緑に繋がりがあり、人と人、人と生物の
ふれあいを大切にする空間づくり

観音寺用水などの京山地区の魅力を更に高める

※「岡山市都市ビジョン(2007/6)」より一部抜粋

市民主導の現地調査やワークショップによる検討等

＜現地調査＞



＜ワークショップ＞



＜地域での検討会＞



＜県や市や学識者との検討会＞



市民による整備検討案

4. 緑と水の道

全体に関する要望

- 全体に垣根が高すぎるので手入れをする
- 樹木の整備
(密集させるのではなくまばらに、見通しが悪い箇所の樹木を伐採、形の悪い木や道路にはみ出した樹木の手入れ)
- ◎安全のため用水沿いに低木を植栽
- ◎歩道は人が歩きやすく足に優しい素材で
(自然素材で明るい色。維持管理もしやすい素材)
- ◎バリアフリーを考えた道
- ◎総合グラウンド側に街灯を設置
- ◎螢の棲める場所の保全・整備

■既存フェンス
■既存フェンス+石積み(1段)

●出入り口を拡充してほしい

観音寺用水の
ゲンジボタル

1. 総合グラウンドの入り口(緑門一野球場入り口=南口)

- 総合グラウンドのフェンスを撤去する。目隠し用の木も伐採。
- ◎ガードレールは不要
- ◎川を挟んで両側に垣根用として適切な樹種の植栽
- ◎街灯を設置
- ◎ベンチの設置
- ◎絵図地域の歴史・文化の案内板
絵図の大桟は歴史を語るものなので保存
- ◎子どもも遊べる雁木づくり
- ◎歩道橋を「緑と水の道」にふさわしく安全なデザインに変更

2. 活動、憩いのスペースづくり

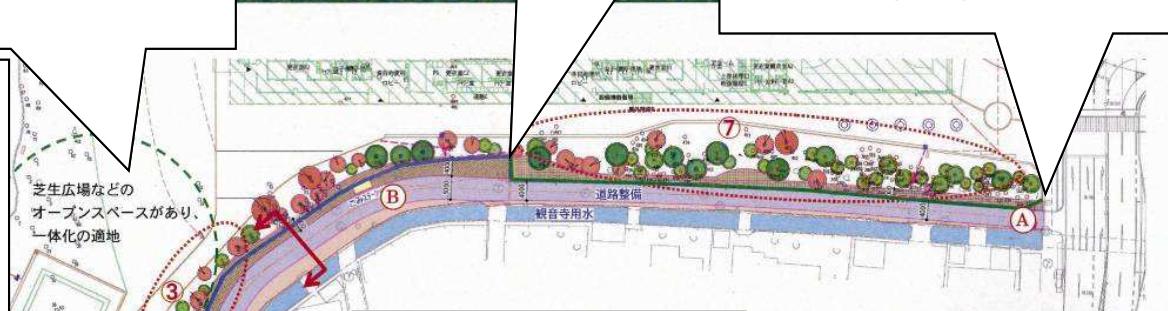
- 自然と親しめる小規模なビオトープの設置
- 市民が安心して憩える場づくり(東屋の変更、ベンチの増設、ひょうたん池の再整備など)
- 市民が安心して通行できるよう総合グラウンド内道路の再整備

3. 総合グラウンド内に歩道を通す場所

- フェンスの撤去後、出入り口をこの場所に設置する

4. 国道53号線からの入り口～歩道

- 国道53号線からの入り口を見通しよく
(入口の垣根が高いので低くするなど)
- フェンスを撤去
- ◎明るく安全に歩ける歩道

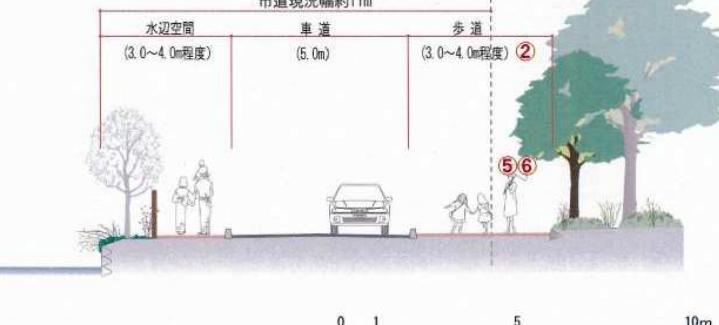


整備イメージ案イラスト

整備イメージ案フォトモンタージュ

市道現況幅約11m

市道との境界



●: 県に整備してほしい項目

◎: 市に整備してほしい項目及び県と市で整備してほしい項目

地域・市民主導だが行政システムに対応したスタイル





第三回伊島学区「緑と水の道」整備推進協議会が、3月28日に絵図町公会堂で開催されました。はじめに、これまで寄せられた意見を踏まえて岡山市と岡山県が作成した計画案の説明がありました。ついで、この案について意見交換を行いました。



グラウンド境界のフェンスを撤去し、垣根を低く刈り込む

桃太郎アリーナ

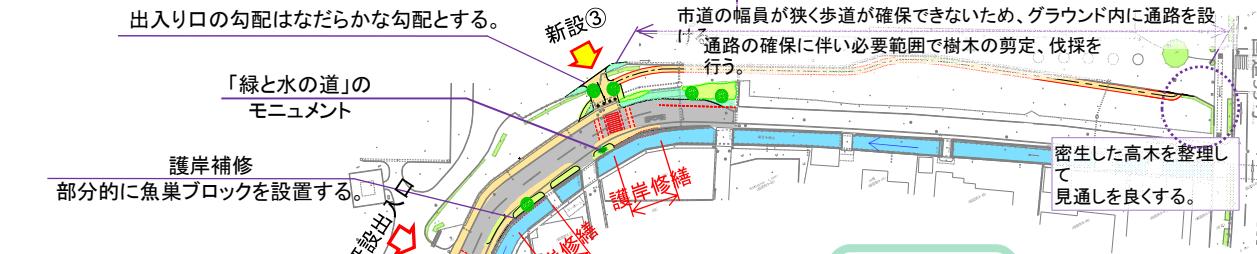
出入り口の勾配はなだらかな勾配とする。

新設③

市道の幅員が狭く歩道が確保できないため、グラウンド内に通路を設ける。通路の確保に伴い必要範囲で樹木の剪定、伐採を行う。

総合グラウンドについて

- グラウンドの境界フェンスを撤去し、垣根を低くします。さらに、出入り口を3箇所新設し、計6箇所とします。公園と道路、観音寺用水が一体的に感じられるようにします。
- 南口の西側もフェンスを撤去し、垣根も低くします。
- 市道の東側の狭くて歩道が確保できない部分では、桃太郎アリーナの南側に歩行者用の通路を設けます。



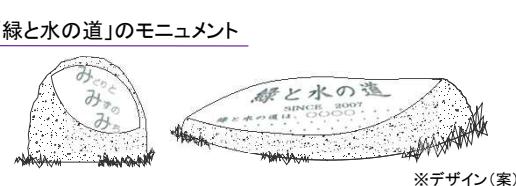
総合グラウンド 野球場

西側も現在垣根のあるところまではフェンスを撤去し垣根を低くする。

新設①



ドライバーの注意を喚起するため
交差点内の舗装をカラー化する
裏面も見てね



※デザイン(案)

道路について

1. 通常の車両通行幅(車道部)は4.5mとする。

通常自動車が通行する車道部は、乗用車が速度を落としてすれ違えるように幅員を4.5mとします。

2. グラウンド側に幅広路肩(幅員2.0m以上)を設ける。

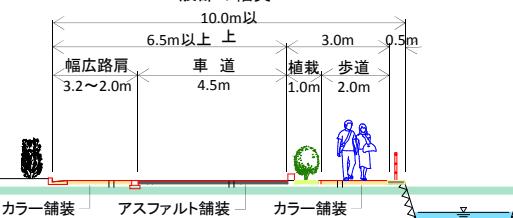
路肩と車道の境界にはフラットタイプの縁石を設置し、かつ、車道と幅広路肩の舗装の色を変えて明確に区切り、歩行者優先であることを明示します。

3. 水辺の歩行空間は、歩道幅2m、植栽1mを基本とする。

歩道は、ゆったりと歩行者がすれ違える幅員2mとし、植栽は、低木地被類を植栽するとともにポイント的に中木を植えることのできる幅1mを基本とします。ただし、グラウンド側の幅広路肩の幅員2mが確保できない箇所については、歩道幅員を1.5m程度、植栽幅0.8m程度まで縮小します。

植栽は、花が咲くような低木、地被類として川側に垂れ込むようなもの、中木は四季が楽しめる落葉樹を想定しています。

一般部の幅員



完成後は、利活用から清掃管理まで、地域主体で実施



環境てんけん



キャンドルナイト

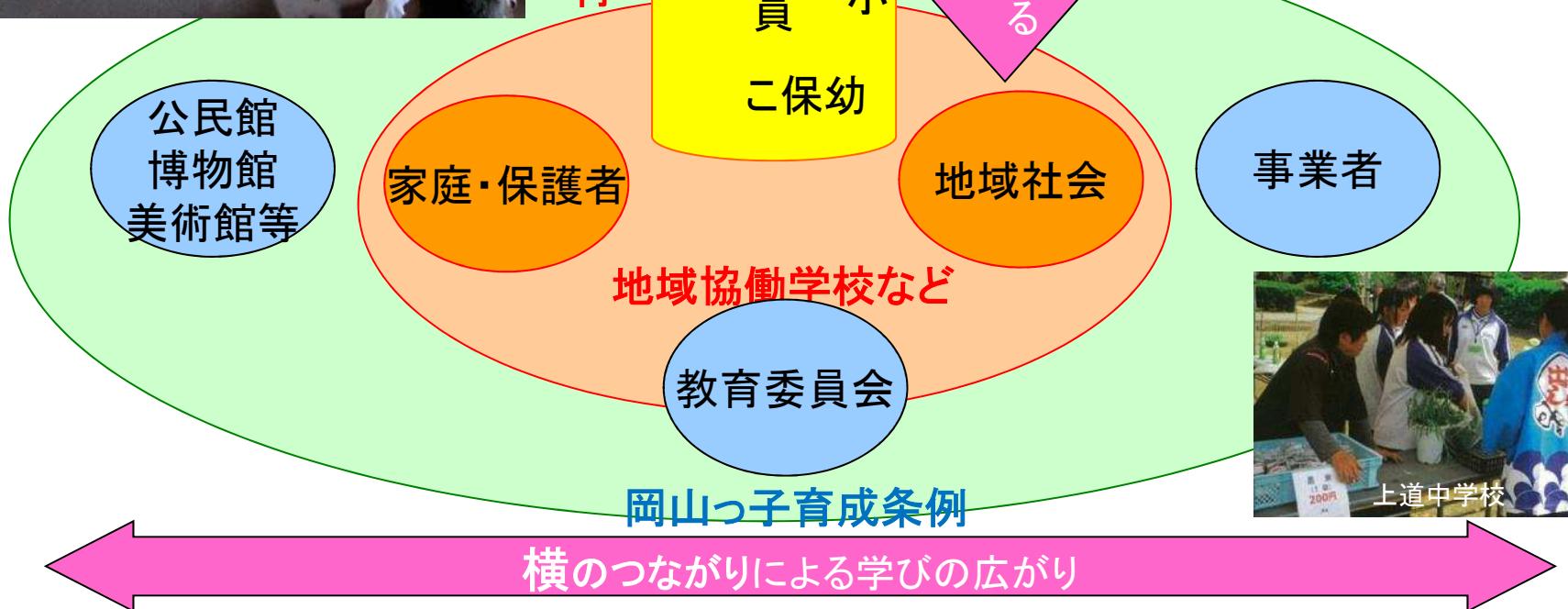


清掃活動



灯籠流し

学校を拠点としたESD推進



上道中学校

社会の習慣を持続可能なものに変えていく
(E)えーものを(S)子孫の(D)代まで

社会
変革

「1人の100歩より
100人の1歩」

未来は変えられる
「共感」から「協働」へ



池田満之…ikd@mxt.mesh.ne.jp